



- SEPTEMBER -



おかむら通信 149号

平成 29年 9月号

◎院長より

ロータリークラブの会長任務がおわり、ホームステイしていた留学生も帰国し、気持ちを切り替える時期になりました。もちろん患者さん中心を貫くのはもちろんですが、地域の障害者、病気を抱えている地域の住民へむかって、クリニックから外へ向かって出ていくことになるでしょう。私のこの方針にスタッフにも協力してもらおう事になります。日常の診療に何ら影響はありませんのでご心配なく。

●今月の言葉

“There are only two ways to live your life. One is as though nothing is a miracle. The other is as though everything is a miracle.”

人生にはたった2つの生き方しかない。一つは奇跡なんかあり得ない、とするか、すべてが奇跡なんだと認識するかである。

- Albert Einstein

●院長から 答えします

①患者さんの勘違い 先生は儲かっているからお金持ちでしょう。現実をお話しします。院長の労働時間は長く（スタッフがかえってから夜遅くまで、休みの日のほとんどはクリニックにきています、）時間給で計算すると看護婦さんとだいたい同じです。みなさま、他は知りませんが、おわかりいただけましたでしょうか？ これでクリニックはやっと成り立っています。まあ、この国の巧みな保険医療費抑制政策のおかげでしょうね。

②医療は芸術です 医療は心です。奉仕です、まず患者さん最優先です。よわいものを理屈なしで助けるのが医療です。医療はお金がかかります。だからよほどお金持ちでもなければ、場合によっては病気になったら、生活が成り立たなくなります。だからみなさまを助ける医療保険が必要なのです。前も言いましたが、ドイツ・フランクフルト国立病院の大きな壁に、巨大なゲートの絵が描かれています。患者一人当たりの医療スタッフ数（医師・看護師その他）は日本の某国立病院の4.5倍です。毎年300億円程度の補助が国から出ています。

③松戸の地域で、住民参加型の地域のあつまり、に私が一ドクターとして参加することを依頼されました。私や、ほかの医療関係の方々とともに、小さな発表とじっくり相談受けをすることになるでしょう。つまり住民の持たれている課題を一緒に考えて、共に解決していこうとする、一つの流れと判断しました。これから、息の詰まるような社会になっていくにつれ、われわれ市民が自ら解決へのりだす、とっかかりになるかもしれません。





戦前は、町で、村で、まとまって、一緒に考え、自分たちのことは自分たちで面倒を見ていた時代があったそうです。そうすることによって、人々がもっと接しあい理解しあい身近に生きていて生きる実感のようなものがあったのかもしれませんが。

④またまた症状がないことについて： 病気とは、ほとんどすべて症状が最初はありません。また急変というものも、皆様が分からないところで、自覚しないところで悪化が積み重なった末の起こる、病気の革命みたいなものです。

⑤喘息発作で、息が吸えなくなった時、どうすればいいのですか？ 変わった質問ですが、慌てて吸い込もうとしてはいけません。余計に気道（気管・気管支等）が閉塞に向かいます。ゆっくりゆっくりとあさく息を吸うことで、肺の奥へ空気が入ってゆきます。

⑥またまた64列CTの宣伝です。なんでこんなにとびぬけて性能の良いCTをたかが、ちいさなクリニックで入れたのですか？ 先生は何を考えているのですか？ 自分ができることを、したまでのことです。儲からない理由の一因ですが。

⑦血圧の適正値はいくらですか？ 糖尿病 腎臓病 動脈硬化疾患などを有している患者さんには、それぞれ違った適性の血圧目標値があるのです。100人いたら100とおりの目標値があります。メディア、友人の噂話、特に物知り顔の医療関係者は危ないですよ。知らない人ほど、断定して、しゃべりませよね。

⑧糖尿病で長く治療してますが、先生たちが言うようになかなかHbA1Cが7.0以下になりません。いつも7.6から時に8.2になってしまいます。どうしたらよいのですか？ ひとこと、インシュリンを使いましょう。今はとても楽に、使いようの良い、治療効果の高いインシュリンがあります。当院では、夕か夜に1回注射する方法をよく用います。将来ではなく今そこに合併症が近づいていますよ。どうか長生きしてください。

●院長の仕事（8月）

20/（日）松戸市在宅当番日 岡村胃腸科外科にて

26/（土）東葛地区医師会医療協議会 縮充の勧め 講演会

急な寒暖差で体調くずさぬよう
気を付けて下さいね。

担当

ホ
ホ
といた。

